

令和元年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和元年 10月17日

校番	10	学校名	広島県立尾道北高等学校	校長氏名	松井 太	全・定・通	①分
----	----	-----	-------------	------	------	-------	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<p>○ミッション・ビジョンを踏まえたものになっており、現状と課題を適切に分析したうえで、新しい大学入試と社会のグローバル化に対応した学校を目指したものとなっている。</p> <p>○「めざす尾道北高の学び」を設定し、明確な学校目標のもとで、新しい学力観に基づいた学びの保証を目指している。数値指標については、生徒の現状を踏まえたもう少し低い数値目標にしてもよいと考える。</p>
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<p>○適時適切に評価されている。生徒の学習状況の把握については、学習習慣の定着度と学力レベルのクロス分析による「主体的学び」の定量分析がされており、経時的な変化を分析することで、個の学習を丁寧にサポートできるようになっている。</p> <p>○進捗状況を把握するためのアンケートや学習・生活実態に関する調査が計画的に実施されており、相対的かつ客観的に評価できるよう工夫がなされている。</p>
目標達成に向けた取り組みの適切さ	A	<p>○各分掌、学年で主体的な学び、深い学びの育成に取り組むものになっており、総体として組織的かつ継続的な取組となっている。</p> <p>○「英語の4技能重視も含む新しい大学入試への対応」について、オンライン英会話、留学生との交流、海外修学旅行など英語の活用場面を増やす取組がなされており、今後の成果が期待される。生徒の描く「学びの地図」は多様化しており、個と集団に対応するためには教職員の協力が不可欠である。</p>
評価結果の分析の適切さ	B	<p>○進路指導部、教育研究部、生徒指導部、総務部等において、継続的に評価結果を集計しており、学年での比較、年次での比較、推移などについてとても細かく分析ができている。教科、分掌において、若干の差がある様だが、ほぼ適切である。</p> <p>○結果等を数値で表せないものもあり、分析の難しいものもあるが、評価の理由による記述やpp資料による説明を踏まえると適切と考えられる。</p>
今後の改善方策の適切さ	A	<p>○ICTの活用と生徒の深い学びとの関連を考えると、授業の効率化のみならず、宅習と授業を結びつけるツールとして用いることも必要で、その工夫も次年度も視野に入れて検討することが必要ではなかろうか。</p> <p>○地域との共存について、もう少し明確な言葉をどこかに含めてもよいのではないかと。</p> <p>○「めざす尾道北高の学び」推進に向けた、教職員の更なる共通理解と取組に期待する。</p>
総合評価	A	<p>○自主的、自立的な学校運営、学校経営が推進されている。</p> <p>○課題を適切に分析し、社会に必要とされる人材を育てるという意識を高く持ち、学校の魅力を高めたり、グローバル化に対応するプログラムを打ち出している点や、生徒が主体的に学ぶことができるように組織的に支援したり、個の学習を丁寧に指導したりする従来の取組を継続して行っている点も評価できる。</p>